

第2次
滝川市環境基本計画・地域行動計画

年 次 報 告 書
(令和5年度版)

滝 川 市

◇第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画 年次報告書とは…

滝川市「第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画」（以下「環境基本計画」という。）では令和7年度を目標年度とし、平成28年3月に策定し滝川市がどのような取組を行っているか、また、実際にどこまで成果が上がっているのかなどを、毎年、検証することを取り決めています。この報告書は、その一環として、前年度の状況などをとりまとめて、皆さんにご報告するためのものです。なお、中間年にあたる令和2年3月に計画の見直しをしています。

「第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画」とは

目指すべき環境の姿を実現するため、次のとおり基本目標を掲げ、この基本目標を達成するため、環境を構成する4つの分野のそれぞれに基本目標を定めます。

基本目標

豊かな環境を1人ひとりが守り育む
『環（わ）のまち』たきかわ

目標1 生活環境

環境にやさしく、資源を有効に活用する循環型社会を目指すまち

目標2 地球環境

エネルギーを大切に、環境への負荷の少ないまち

目標3 自然環境・農業

身近な自然と触れ合うことで、その大切さや素晴らしさを実感できるまち

目標4 環境コミュニティ

みんなが学び、共有することによる環境保全の環（わ）が広がるまち

計画では令和7年度までに、次のとおり具体的な数値目標を設定しています。

項 目	目標値	備 考
市民1人・1日当たりのごみ排出量(家庭系ごみ) ※資源ごみは除く	500g	—
リサイクル率	25.0%	—
エコドライブによるCO ₂ 削減	172,100 kg/年	—
滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量	4,250kg	1年間に消費したエネルギー量を原油量に換算
エコネット登録団体の自然保護活動参加人数	8,700人	—
農業体験授業(事業)実施校数	80%以上	—
環境学習リーダー養成講座の受講者数	350人	第1次計画175名からの累計
環境市民大会における参加者の平均評価点	85点以上	—

(1) 生活環境（身近な問題）

1 令和5年度における数値目標の達成状況について

市民1人・1日当たりのごみ排出量（家庭系）

目標値（令和7年度時点）	500 g/人・日
実績値（令和5年度）	566 g/人・日

リサイクル率

目標値（令和7年度時点）	25.0%
実績値（令和5年度）	18.4%

令和5年度の評価



全体的にごみの量は減少傾向にあります。また、令和4年度において罹災ごみの搬入増加に起因して増加していた粗大ごみについては減少傾向にあります。拠点回収は中島町で行っていた拠点回収が終了したため、減少しています。資源回収は容器の材質変更や容器そのものの軽量化の影響もあり、収集量は年々減少傾向にあります。

区分		単位	4年度	5年度
収集人口 ①		人	37,689	36,811
収集世帯		世帯	20,839	20,632
家庭系	生ごみ	t	1,374	1,277
	燃やせるごみ	t	5,135	4,964
	燃やせないごみ	t	430	403
	粗大ごみ	t	1,029	985
	資源ごみ	t	609	575
	計 ②	t	8,577	8,204
事業系	生ごみ	t	1,626	1,403
	燃やせるごみ	t	2,087	2,077
	燃やせないごみ	t	57	49
	粗大ごみ	t	299	131
	資源ごみ	t	56	64
	計 ③	t	4,125	3,724
資源化量 (資源回収以外)	燃やせないごみ・粗大ごみより回収	t	339	472
	生ごみより回収 ※H29年度から生ごみからのバイオガス分を追加	t	441	341
	資源ごみより回収	t	638	550
	計 ④	t	1,418	1,363
資源回収	拠点回収	t	10	4
	集団資源回収	t	1,079	1,020
	資源回収の合計 ⑤	t	1,089	1,024
合計 ⑥ (②+③+⑤)		t	13,791	12,952
埋立処分量		t	1,005	912
リサイクル率 (④+⑤) / ⑥		%	18.2	18.4
市民1人・1日当たりのごみ排出量（家庭系※1）		g	579	566

※1 資源ごみ及び資源回収分を除く

2 令和5年度における主な取組について

- (1) 市民運動エコライフたきかわ(＝エコたき)の推進
滝川市では、新しい市民運動として、平成28年度からいつでも、どこでも、だれでも簡単にできる「人」と「地球環境」にやさしい行動「エコたき」を推進しています。

令和5年度は「エコたき」の基本となる「エコたき4か条」の「コ(ゴミを減らして快適ライフ)」を重点目標とし、環境市民委員会で審議いただきました。

また、環境に興味を持つ生徒が環境学習リーダーadvanceとして小学生に環境学習を行い、地球温暖化に興味・関心を持つきっかけづくりを行いました。



- (2) 集団資源回収事業

町内会をはじめとした各種団体において、資源の回収を奨励し、回収された資源の量に応じて、奨励金を交付しました。

実施団体数 延べ291団体(前期145団体、後期146団体)

奨励金交付額 204万円(前期102万円、後期102万円)

単位：t

		4年度	5年度
区分	紙パック	6	8
	紙類	831	776
	びん類	108	105
	金属類 (スチール缶、アルミ缶、その他金属)	65	63
	ペットボトル	69	68
	その他	X	X
計		1,079	1,020

※四捨五入等の関係で計は一致しない。

※区分「その他」について、物としてはビールメーカーP箱などのこと。総重量が1tを越えないため重量表記についてはXとする。

- (3) カレンダーリサイクル事業

滝川市立図書館において、カレンダーリサイクル展を実施しました。

期間中(1月5日～1月31日)にカレンダー及び手帳3,772点が引き取られ有効活用が図られました。

- (4) 滝川市リサイクルフェア

空知自動車学校の「WaiWai フェスタ」と合同開催の滝川市リサイクルフェアは、新型コロナウイルス感染症予防のため、開催を見送りました。

- (5) リユースショップ情報発信事業

資源の有効利用やごみ減量推進の一環として、製品等の再利用(リユース)の円滑化を図るべく、市内で古物商を営む事業者店舗の情報を集約し「滝川市リユースショップ一覧表」として情報提供を行いました。

情報発信依頼店舗数：8店舗

(6) 古着・古繊維の拠点回収について

ごみ減量やリサイクル率の向上を目的として、家庭で不要となった古着・古繊維の拠点回収を江部乙支所で行いました。

令和5年度の回収量は約4 tで、前年度より1 t減となりました。

(7) たきかわクリーンデイの実施

清掃による環境美化のみならず、清掃活動を通じた環境保全への意識高揚が期待される全市一斉清掃「たきかわクリーンデイ」を町内会・学校・事業所など多くの市民の皆様にご協力いただき実施しました。

	実施期間	参加団体数等	参加人数
春	設定期間 4月8日～5月7日 実施期間 4月8日～6月14日	116 団体 (町内会：98・事業所：11・団体：4・学校3) ボランティア袋配布数：40 リットル／2,310 袋 20 リットル／1,340 袋	4,386 人
秋	設定期間 10月1日～11月3日 実施期間 10月1日～11月12日	65 団体 (町内会：59・事業所：4・学校：2) ボランティア袋配布数：40 リットル／820 袋 20 リットル／420 袋	1,779 人

(8) 滝川市（公用）ボランティア袋の配布

まちの美化は、住民と行政が互いに協力し合って取り組むテーマであり、多くの人々が利用する道路や公共施設がきれいになっていることは、「心地よさ」とともに地域や市全体の「誇り」です。

きれいなまちで暮らすため、道路、公園、河川、公共施設などの清掃・美化にご協力いただける団体・個人の皆様に、滝川市では無料でボランティア袋の配布を行っています。

なお、クリーンデイに参加される方にも配布しています。

※令和5年度は、8,513 枚（40 リットル／5,588 枚、20 リットル／2,925 枚）を配布しました。

(9) リサイクル推進員対象ごみ分別講座の開催

開 催 日 令和5年6月23日

会 場 滝川市役所 301・302 会議室

参加人数 10 名

内 容 滝川市のごみ処理の状況について、「リサイクル推進員」を対象にごみ分別講座を行いました。

講座の中では主に「雑がみ」の種類について説明したほか、ペットボトルやアルミ缶・スチール缶について日本でのリサイクル率について説明を行いました。



- (10) 滝川市民向け「ごみ分別出前講座」の開催
 ごみの分別促進を目的として、収集後のごみの行方（処理方法）や雑がみ分別について資料を用いて講座を行いました。また、雑がみ分別について収集可能なもの、不可能なものについて実際に分別を体験していただき理解を深めてもらいました。

第1回

開催日 令和6年2月8日
 会場 見晴団地集会所
 参加人数 20名

第2回

開催日 令和6年3月28日
 会場 FMG'sky
 参加人数 2名

第3回

開催日 令和6年3月29日
 会場 みずほ団地集会所
 参加人数 25名



ごみ回収のその後はどうなってるの？ そんな疑問にズバリとお答えします。 滝川市の収集されたごみの行方は！？

ごみの分別が大事なものは理解できるけれど、分別されたごみは一体どうなっているの？という市民の皆さんからのお声を受けて、右記一覧表を作成し、ホームページに掲載しています。

皆さんにご協力いただき細かく分別されたごみが、どのように処分やりサイクル等されているのかをぜひ一度ご確認ください。



滝川市ホームページ→組織でさがす→
 暮らし支援課→ごみ処理関係→
 家庭系ごみの分別収集→滝川市で収集されたごみの行方について→「滝川市の収集されたごみの行方は！？」



(2) 地球環境（地球全体の問題）

1 令和5年度における数値目標の達成状況について

滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量

目標値 原単位で年平均 1 %削減

実績値（令和5年度）4,331kL

※前年比 116.0%

エコドライブによるCO₂削減

目標値 172,100 kg/年削減

実績値（令和5年度）1,010,915 kg/年削減

前年比 174.8%

※原単位とは施設の延べ床面積あたり

令和5年度の評価

日本政府が進める国民運動「COOL CHOICE（＝賢い選択）」と市民運動「エコたき」をキーワードにした「COOL CHOICE でエコたき」を柱とした普及啓発事業を行い、市民や事業者に省エネルギーやごみ削減を主としたCO₂削減活動に努めるよう周知しました。また、街路灯切替促進補助金により、町内会の街路灯のLED化が進んでいます。

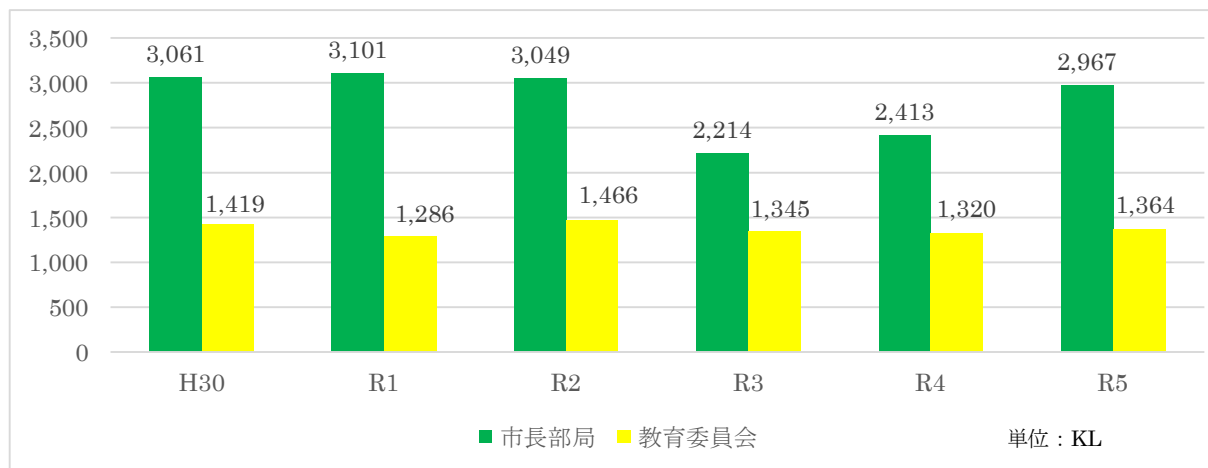
今後も、地球温暖化防止の普及啓発事業として環境学習やごみ分別講座を行うほか、ホームページなどを通して、年々深刻化する地球温暖化の現状を知ってもらい、市民が温暖化防止に向けて、市民自ら考え・行動できるような呼びかけを行っていきます。



(1) 滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量について

滝川市が管理する公共施設全体で令和5年度1年間に消費したエネルギー量は、原油量に換算すると4,331キロリットルになりました。

滝川市の公共施設エネルギー消費量（1年間に消費したエネルギー量を原油量に換算）



(2) エコドライブによるCO2削減

1年あたりの自動車学校卒業時講習受講者500名を年度毎の取り組み者数とし、資源エネルギー発行の「家庭の省エネ徹底ガイド春夏秋冬」で示されたガソリン節約量(年間10,000km走行、平均燃費11.6km/ℓを想定)をCO₂削減量に換算し目標値を設定してます。

令和5年度空知自動車学校卒業時講習受講者648名に加え、高齢者講習時においてもエコドライブ講習を実施し2,289名が受講、計2,937名が受講しました。

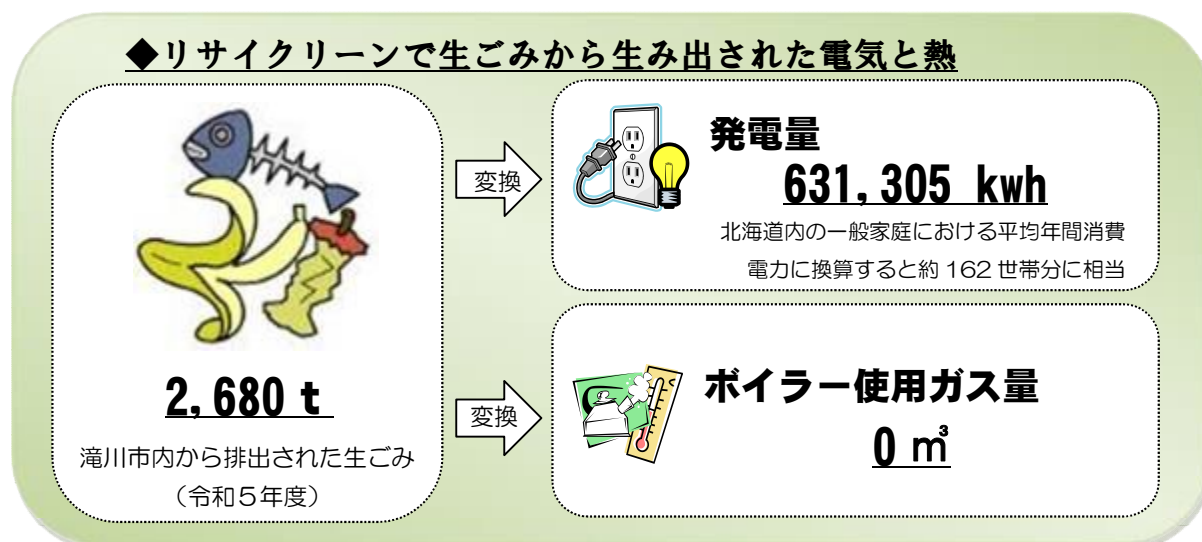
1人あたり1年間でガソリン148.28ℓ節約 原油換算132.42ℓ CO₂削減量344.2kgに2,937人を乗じ、ガソリン435,498ℓ(原油換算388,917ℓ・CO₂換算1,010,915kg)の削減となりました。

(3) バイオマスのエネルギー利用

① 生ごみのエネルギー利用

東滝川にある中空知衛生施設組合リサイクリーン(滝川市のほか赤平市、芦別市、雨竜町、新十津川町と共同運営)では、各市町で分別回収された生ごみ(一般廃棄物)からメタンガスを取り出しています。

メタンガスは発電機やボイラーの燃料として供給され、電気や熱に変換され施設運営等に活用されています。なお、令和5年度は電気料金高騰のため、全て発電に使用しました。



※それぞれ、施設全体の発電使用ガス量に滝川市の生ごみ排出割合(61.9%)を乗じた値です。

② 下水道汚泥のエネルギー利用

滝川市の下水道は、石狩川流域下水道(北海道及び6市4町により運営)に接続されており、奈井江町内にある下水道処理施設(奈井江管理センター)に送られ浄化されます。

浄化処理の過程で有機物からメタンガスを取り出し、生ごみ処理と同様、得られたガスを電気や熱に変換して利用しました。

	施設全体	滝川市分
I 汚泥処理量(t)	2,850	1,190
II メタンガス発生量(m³)	1,249,000	519,580
III メタンガス使用量(m³) →メタンガス発電等として利用	1,240,000	515,840
IV 発電量(kWh)	1,385,000	576,160

※発電量：北海道内の一般家庭における平均年間消費電力に換算すると約160世帯分に相当

※Ⅱ～Ⅳの滝川市分は下水処理量の割合から按分した値です。

③ 可燃ごみ焼却によるエネルギー利用

滝川市の可燃ごみは、中・北空知廃棄物処理広域連合（５市９町により組織）が設置、管理及び運営している、歌志内市にある一般廃棄物焼却処理施設（中・北空知エネクリーン）に搬入、処理しています。

施設では、ごみを焼却したときに出る熱を利用して蒸気タービンで発電し、発電した電気は施設内で使われ、余った電気は売却し有効活用しました。

	施設全体	滝川市分
I 可燃ごみ搬入量（t）	22,134	7,968
II 可燃ごみ焼却量（t）	22,115	7,961
III 発電量（kWh）	10,905,181	3,925,747
→売電（kWh）	→6,348,761	→2,285,485

※発電量：北海道内の一般家庭における平均年間消費電力に換算すると約 1,062 世帯分に相当

※Ⅱ・Ⅲの滝川市分は、Ⅰの割合から按分した値です。

（４） 市内公共施設における太陽光発電設備のデータの公表

平成 22 年度に設置した滝川市役所庁舎壁面の太陽光発電設備のほか、滝川市内の公共施設（北海道滝川高等学校、札幌地方検察庁滝川支部、滝川第三小学校、滝川ふれ愛の里）に設置されている太陽光発電システムの発電量を集計し、滝川市公式ホームページにおいて公表しています。

令和5年度 月別発電量



※発電量合計は、集計機器トラブル等により、一部の施設の数値が反映されていません。

単位：kWh

i) 滝川市役所



- ・出力：5 kW
- ・角度：90°
- ・年間発電量：3,809.1 kWh
- ・設置年月日：平成 22 年 12 月

ii) 北海道滝川高等学校



- ・出力：20 kW
- ・角度：50°
- ・年間発電量：23,312.6 kWh
- ・設置年月日：平成 22 年 12 月

iii) 札幌地方検察庁滝川支部



- ・出力：5kW
- ・角度：45°
- ・年間発電量：6,050.4kWh
- ・設置年月日：平成22年7月

iv) 滝川第三小学校



- ・出力：10kW
- ・角度：90°
- ・年間発電量：10,030.8kWh
- ・設置年月日：平成27年3月

v) 滝川ふれ愛の里



- ・出力：12kW
- ・角度：45°
- ・年間発電量：12,888.91kWh
- ・設置年月日：平成27年4月

(5) 町内会街路灯切替促進補助金

町内会等が維持・管理する街路灯をLEDに切替促進するための補助金を支出しています。

令和5年度実績：264灯

※街路灯のLED化率91.79%（LED：5,543灯、LED以外：496灯 合計6,039灯）

(6) 市内コミュニティセンター等の照明をLEDへ切替えしました。

コミュニティセンター名	場所	実施
中地区コミュニティセンター	集合室	○
東地区コミュニティセンター	1F・2F ホール 2F トイレ	○
三世代交流センター北地区分館	クッキングサロン ホール スポレク物置 トイレ	○
西地区コミュニティセンター	事務室 トイレ 洗面所	○

(7) 燃料効率を向上させる液体燃料触媒の試験的導入

燃料に投入することで燃費効率を向上させる液体燃料触媒を市の公用車へ試験的に導入しました。

試験期間：令和5年5月～令和6年3月



(3) 自然環境・農業（自然・農業の保全）

1 令和5年度における数値目標の達成状況について

エコネット登録団体の自然保護活動参加人数

目標値（平成28年度～令和7年度累計） 8,700人

実績値（平成28～令和5年度累計） 26,720人

○NPO法人まち・川づくりサポートセンター

・みんとち自然体験楽校／49名

・WETプログラム／5,177名

○江部乙丘陵地のファンクラブ

・フットパス・観察会参加者／66名

○たきかわ環境フォーラム

・自然環境と動物に関する取組／153名

農業体験授業（事業）実施校数

目標値 80%以上 実績値（令和5年度） 100%

○令和5年度の実施校 18校（全18校）（順不同）

滝川幼稚園、白樺幼稚園、一の坂保育所、江部乙保育所、花月保育所、二の坂保育所、中央保育所、第一小学校、第二小学校、第三小学校、東小学校、西小学校、江部乙小学校、明苑中学校、江陵中学校、開西中学校、國學院大學



令和5年度の評価

「たきかわエコネット」の自然保護活動実施の呼びかけや支援、農業体験の実施、SDGsへの取り組みなどは、生き物や自然の大切さを知り、限りある資源に感謝する心を育てるために重要なものです。

今後も、民間団体や教育機関等との相互協力を進めながら、継続的に取り組んでいきます。

2 令和5年度の主な取組について

(1) 地域農業の振興と住民等との交流促進のための取組

①農業体験の推進

グリーンツーリズムに係る取組

「そらちDEい～ね」を介した受入事業

時期 令和5年6月13日～9月20日

受入件数 延べ14件

参加人数 計8校55人

受入農家 計5戸

たきかわエコネット

(2) 川との共生に向けた取組

「NPOまち・川づくりサポートセンター」による取組

（「NPOまち・川づくりサポートセンター」から報告を受けた文書を転記しております。）

①環境美化保全活動（第20回 石狩川クリーンアップ作戦）

ごみ問題は次世代への課題であり、ごみを放置することが野生生物を呼び寄せたり海へと流れ出たプラスチックごみが海洋汚染の原因となり生態系に悪影響を及ぼすことは知られている。今年も私たちの暮らすまちや川をきれいにし、豊かで過ごしやすい空間

になるように、河川愛護団体や町内会、ボランティア等の団体に呼び掛けて、石狩川やラウネ川周辺のゴミ拾いを行った。

近年は、子供連れの参加が目立っている。幼少期から環境保全活動に関わることは、将来の河川環境を考える上でも好ましいと感じている。年々、収集されるごみの量が減り不法投棄なども見られなくなり、この活動の成果を実感している。

実施日：5月28日（日）9：00～11：00

参加者：9団体 約100名



②滝川子ども水辺協議会の活動（みんとち自然体験楽校）

市内の子ども達を対象に、石狩川や周辺の自然を活かして体験活動の面白さや河川環境保全などに気づいたり関心を深めたりしてもらうことをねらいに開校した。一年を通して身近な自然の変化や季節の特徴を体験してもらうため、春・夏・秋・冬の4つのコースを計画した。また、活動を通して仲間との協力や異年齢との人間関係を学び、社会性や郷土愛も育まれることも期待している。

ア) 春コース：みんとちのひみつ

開催日 令和5年6月24日

参加人数 7名

内容 石狩川周辺の春の自然を観察した。春の草花の観察を通して、自然界の不思議を発見したり、生物の視点で様々な植物を観察した。午後は、「ネーチャーゲーム」を通して動植物が身を守るための擬態や保護色について学んだ。また、おやつで桜餅や柏餅を食べながら、植物を活用する先人たちの知恵についても学んだ。

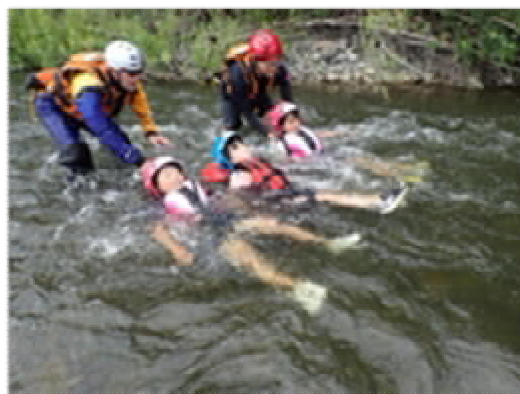


イ) 夏コース みんとちの冒険

開催日 令和5年7月29日

参加人数 7名

内容 Eボート体験、水生生物調査、水防災の直接体験などを行った。石狩川とラウネ川の合流点をスタートし、石狩川と徳富川の合流点のゴールを目指して力を合わせてEボートを漕ぎ、支流の徳富川では川流れや魚す



くいを通して、川遊びの楽しさを味わった。夏コースならではの体験を通して、身近な川と災害・川の危険性、川の環境保全など楽しさと危険性の二面性についても意識を高めることができた。

ウ) 秋コース みんなの知恵

開催日 令和5年9月30日

参加人数 24名

内容 秋の川下りを通して、秋の自然環境の変化や動植物とのつながりについて興味や関心を持つことをねらいに行った。今年は、江竜橋下流からラウネ川合流点まで9kmの川下りをしながら、上空を飛ぶ渡り鳥や黄葉した柳などを観察した。午後は、イタドリで水鉄砲を作ったり笹舟流しを楽しんだ。また、滝川産リンゴの味比べなど秋の自然を五感で体験した。



エ) 冬コース みんなのかくれ家

開催日 令和6年2月3日

参加人数 11名

内容 冬の石狩川周辺の自然を観察し、水の変化や北海道ならではの雪に親しむ活動を計画した。

イグルー制作は、雪を踏み固めてブロックを切り出し積上げる方法で行った。午後は、ボートで坂を滑ったりスノーシューで雪原を歩いたり、動物の足跡をたどったり、冬芽を観察したり、雪に閉ざされていても、生物は春の準備をしていることや生命を維持していることなどを体験的に学んだ。



ウ) 指導者（ボランティア）の育成

自然体験活動を安全に楽しく実施するためには、子ども達と一緒に活動できる指導者が必要である。

今年も高校生にボランティアとして指導をお願いした。工作の説明やノコギリやキリの安全な使い方の説明を通して、自分たちも工作や自然体験活動を楽しんでいた。

また、川の活動は、水難救助訓練受講者で組織している「石狩川流域住民水難救助サポートセンター」にお願いし、安全に水辺の活動を実施できるようにサポートしてもらっている。

③滝川地区地域防災施設を活用した環境・防災の学習 プロジェクト WET

※ プロジェクトWET (Water Education for Teachers) とは・・・

世界 66 以上の国と地域で活用されている水教育プログラム「プロジェクト WET (Water Education for Teachers)」は、子どもたちが主体的・対話的で深い学びが得られるように開発され、アクティブ・ラーニングの視点と合致するツールです。

(出典：公益財団法人河川財団プロジェクト WET ジャパン)

ア) 流水実験

実験装置による流れる水の働き（浸食・運搬・堆積）を観察し、狭い川と広い川の水の流れを比べ、流れる水の働きによる地形の変化を実験装置で分かりやすく説明しました。

また、水量が増える原因やその結果についても考えてもらい、気象や地形、川との暮らしや災害との関連についても気づいたり考えたりできるようにしました。

(参加人数 1,184 名)



イ) 自然再生ジオラマ

石狩川は長さ日本第3位の一級河川である。実験装置で蛇行している川と治水により直線になった川の流れ方の違いを目で確かめることにより、流速や低地の様子、川の役割などを学年に応じて分かりやすく説明しました。また、石狩川とともに人々の暮らしや産業が発展したことにも気づいてもらえるように説明しました。

(参加人数 1,164 名)



ウ) 水の環境学習

地球上を取り巻く水や地球環境について体験的に学ぶ活動として、いくつかのアクティビティを行いました。「驚異の旅」「水のババ抜き」「青い惑星」など手軽に出来るものを準備して行いました。

(参加人数 1,164 名)



エ) 石狩川 1/1000 模型で調べよう (リバーワーク)

神居古潭から石狩湾までの流域で合流する河川名、市町村名、ショートカットによりできた三日月湖を調べたり笹舟をながしたり、石狩川の中流域の様子や滝川市の近隣市町の様子を模型の川を歩きながら確認したり水と触れ合ったりしていました。

(参加人数 1,532 名)



ウ) 川から自然環境を考える活動 (石狩川の川下り)

川から見る自然を体験してもらうため、Eボート (10 人乗りのゴムボート) による川下りを実施した。参加者には、石狩川や支流の空知川下りを通して、河川環境や文化・歴史・暮らし、災害・減災・防災などについて気づいたり考えたりしてもらうことを期待しています。

参加者は、川底の太い流木や川岸の漂流物、浮遊するプラスチックゴミなどを目の当たりにし、水災害の恐ろしさや川のゴミは街からのゴミであること、流域全体で環境を考えることが大切であることなどに関心を寄せており、きれいな水かどうかの水質を判断する指標の水生生物を見つけて観察も行いました。

また、小学校団体を対象に防災学習として水流や水圧を体験する「浸水市街地想定歩行訓練」「川流れ」を実施しました。

(参加人数 99 名)



カ) 人材の育成

万一に備えた救助訓練や川下りに備えたボートの操作訓練を行いました。

流況が違う石狩川および空知川で講習会を行ったが、川は季節や天候、上流の状況によって変化するので訓練を繰り返すことが大事であることを実感していました。

(参加人数 34 名)



たきかわエコネット

(3) 森との共生に向けた取組

「江部乙丘陵地のファンクラブ」による取組
フットパス及び自然観察会 (6 回)

開催日 令和 5 年 5 月 20 日～令和 6 年 3 月 3 日

内容 江部乙丘陵地を歩いて、自然観察等を行いました。

参加人数 延べ 66 人

(4) SDGs に関する取組

「滝川イオンチアーズクラブ」による取組

たきかわエコネット

①活動展示

開催日 令和5年6月30日～7月19日
会場 滝川市立図書館
内容 SDGs 学習として、「食」に関する内容について調査を行い、壁新聞にまとめ、環境月間に合わせて展示を行いました。



たきかわエコネット

(5) 自然環境と動物に関する取組

「たきかわ環境フォーラム」による取組

(「たきかわ環境フォーラム」から報告を受けた文書を転記しております。)

エコカフェ「くらしに身近な野生生物とのおつきあい」

内容 クマやシカに代表される野生動物の存在は、北海道の「自然の豊かさ」を象徴していますが、人間社会とのあつれきは避けられず、とりわけ「現場」の住民や自治体にとって、どのように共生を図るかは、いまま大きな課題です。野生動物保護管理の専門家のみなさんを講師に迎えて最新情報を学びながら、解決を目指して議論します。

講演録を、たきかわ環境フォーラムのウェブサイトで公開しています。

<http://ecoup.la.coocan.jp/index.html>



①エコカフェ「アライグマ編」

開催日 令和5年6月25日
会場 滝川市まちづくりセンター「みんくる」
講師 地方独立行政法人北海道立総合研究機構
産業技術環境研究本部エネルギー・環境・地質研究所研究推進室主査
上野 真由美 氏
参加人数 21人

②エコカフェ「エゾシカ編」

開催日 令和5年8月26日
会場 滝川市まちづくりセンター「みんくる」
講師 一般社団法人エゾシカ協会専務理事
国立研究開発法人森林総合研究所北海道支所主任研究員
松浦 友紀子 氏
参加人数 19人

③エコカフェ「ヒグマ編」

開催日 令和5年10月28日
会場 滝川市民交流プラザ
講師 北海道環境生活部自然環境局野生動物対策課ヒグマ対策室主幹
武田 忠義 氏
参加人数 53人

たきかわエコフェスタ「野生動物は行政界にお構いなし」

開催日 令和6年11月18日
会場 滝川市民交流プラザ
話題提供 北海道滝川高校教諭 長澤 秀治 氏
パネリスト 地方独立行政法人北海道立総合研究機構
産業技術環境研究本部エネルギー・環境・地質研究所研究推進室主査
上野 真由美 氏
一般社団法人エゾシカ協会専務理事
国立研究開発法人森林総合研究所北海道支所主任研究員
松浦 友紀子 氏
北海道環境生活部自然環境局野生動物対策課ヒグマ対策室主幹
武田 忠義 氏

参加人数 60人

内容 クマやシカに代表される野生動物の存在は、北海道の「自然の豊かさ」を象徴していますが、人間社会とのあつれきは避けられず、どのように共生を図るかは、地域に暮らす住民にとって、また地方自治体にとって、大きな課題です。今年6月から連続開催中のエコカフェ「くらしに身近な野生生物たちとおつきあい」で講師を務めていただいた野生動物保護管理の専門家のみなさんをパネリストにお迎えし、最新情報を共有しながら、解決を目指して議論します。



民間団体の活動のピックアップについて

「NPO法人まち・川づくりサポートセンター」、「江部乙丘陵地のファンクラブ」、「滝川イオンチアーズクラブ」、「たきかわ環境フォーラム」は、市内で活動する民間団体として、それぞれ特色ある取り組みを展開していることから、目標3『自然環境・農業（自然・農業の保全）』を積極的に推進する団体として取り上げさせていただきました。それぞれの団体につきましては、たきかわエコネット(P21 参照)にも記載されていますので、そちらもご覧ください。

なお、民間団体の取組については、今後もピックアップしていきたいと考えていますので、「たきかわエコネット」へのご登録をお願いします。

(4) 環境コミュニティ

1 令和5年度における数値目標の達成状況について

環境学習リーダー養成数

目標値（平成18年度～令和7年度累計） 350 人

実績値（令和5年度累計） 447 人

（うち令和5年度 29 人）

環境市民大会における参加者数

目標値 100 名以上

実績値（令和5年度） 357 名

環境市民大会における参加者の平均評価点

目標値 85 点以上

実績値（令和5年度） 71.8 点

令和5年度の評価

先生役となる若い世代の高校生が、環境保全に取り組むことで、地域住民の関心を高め、市民が自らの行動を振り返り、個々の意識向上に繋げることが期待できます。

さらに、環境学習リーダーも様々な人との関わりや人に教える経験を通して、環境に関する知識を深めるとともに、協調性や自主・自立性を養い、将来の地域づくりを担う人材に成長する貴重な場になっています。

新型コロナウイルス感染予防を踏まえ、一部オンラインで実施していた事業についても、令和5年度は現地での開催を行うことができました。今後も市内の教育機関や環境団体等と連携し、より多くの市民が環境問題について考える機会を提供していきます。



2 令和5年度の主な取組等について

(1) 環境学習リーダー

次世代を担う高校生が、子ども達へ教えるという活動を通して、高校生自身も自らの行動を振り返り、自分自身で考え、人と地球に優しい行動ができるようになることを目的に実施しています。令和5年度は滝川高校理数科1年生23名が新たに環境学習リーダーとなりました。

日 時 令和5年12月19日

主 催 北海道滝川高等学校

会 場 滝川高校 多目的ホール



滝川高校で開催されたサイエンスデーで小学生達に環境学習を行いました。

日 時 令和5年12月2日
主 催 滝川高等学校
会 場 滝川高校 体育館



(2)環境学習リーダーAdvance

環境学習に興味を持つ生徒が、地球温暖化の現状と自分たちの暮らしの関係を学び、市民運動『エコライフたきかわ（通称：エコたき）』で目指している「人」と「地球環境」にやさしい行動ができる人材育成並びに市民間における環境問題への意識向上を目的としています。

日 時 令和6年3月29日
主 催 滝川市、滝川高等学校
会 場 中地区児童センター
内 容 環境に興味を持つ高校生6名が昨年度の環境学習リーダーAdvanceメンバーより手法を引継ぎ、新たな環境学習リーダーadvanceとして小学生に環境学習を行い、地球温暖化に興味・関心を持つきっかけづくりを行いました。

今年度は、クマ視点の内容の絵本を読み聞かせることで、クマが人間の住んでいる地域に足を踏み入れる理由を小学生に知ってもらいました。また、実際のクマの頭蓋骨や毛皮から、クマの生態や大きさ、クマに出会った際の対処方法などを学びました。



(3)環境市民大会「高校生環境シンポジウム in 滝川高校」

主 催 滝川市
共 催 滝川高等学校
開 催 日 令和5年11月11日

会 場 滝川高等学校
体育館

人 数 357 名（滝川高校生徒 342 名）

【第 1 部】基調講演

演 題 「私たち人間の命や暮らしを支える生態系サービス」

講 師 北海道地球温暖化防止活動推進員
外崎 秀和 氏

内 容 今年度はコロナウイルス感染症が落ち着いたこともあり、一般市民についても会場での参加となりました。

くらしと地球温暖化の関係を学び、年々深刻化する地球温暖化の防止に向けて、家庭や地域で取り組まなければならないことを認識する機会として開催しました。

今年度は生態系サービス（生物多様性の中でも食料や水の供給、気候の安定など、人間の生活に与える多大な恩恵のこと）をテーマに講演頂き、衣食住に必要な「供給サービス」、生物間でのつながりの「基盤サービス」、自然と触れ合うことで精神的な豊かさを得る「文化的サービス」、大気や水質を調整する「調査サービス」といった内容を具体例を通して人間の福利との関係性について説明を行いました。

また、開発や乱獲などの人間活動や気候変動による生態系の変化によって発生する危機が生物多様性の損失と生態系サービスの劣化を進めるとし、自然は人類共通の財産であるという認識を持つ必要があることが伝えられました。

高校生からは質疑の際に発言が多数あり、積極的な姿が見られました。



【第 2 部】生徒活動発表

内 容 「SSH 東北研修報告」
「東北研修レポート」

スーパー・サイエンス・ハイスクール（通称：SSH）のカリキュラムの一環で環境問題についての発表を行いました。



(4)環境教育講座

主 催 開西中学校
開 催 日 令和6年2月21日
場 所 滝川市立開西中学校 体育館
参加人数 1年生 48名
内 容 室蘭工業大学の准教授を講師としてお招きして、1年生の環境学習を行いました。SDGsの視点を含めた、広い視野での学びとなりました。

(5)市内保育所と連携したエコドライブ啓発展示

主 催 滝川市
開 催 日 令和5年9月21日～10月25日
会 場 滝川市立図書館
内 容 滝川市内保育所園児による「エコドライブ」のぬり絵展示を行いました。



たきかわエコネット登録団体：8団体(令和6年3月末現在)

団体名	活動内容	団体名	活動内容
滝川イオンチアーズクラブ 	チアーズクラブは全国のイオンで、小中学生を対象として環境学習の活動をしています。 滝川では店での一般参加と、江部乙学童の2箇所を実施。 SDGsについて調べ、目標とする2030年に向けて自分たちが出来る事を考えたり、空知のいろいろなことを調べ、年1回新聞にまとめ発表します	日本野鳥の会滝川支部 	滝川市を中心に空知管内でバードウォッチングを通して自然保護活動が続いています。石狩川と空知川の2大河川が流れる空知には広大な河川敷地と河畔林があり、草原や森林を好む鳥たちの重要な繁殖地となっています。 また、河川改修でできた三日月湖も多く残っていて、渡り鳥たちが旅の途中で羽を休め繁殖地や越冬地に向かいます。そんな野鳥たちの観察記録を蓄積し、鳥たちの生息環境の保全活動をしています。
江部乙丘陵地のファンクラブ 	江部乙丘陵地は農村部に珍しいほどの豊かな自然を生み育ててきた土地です。 私たちは、この地に多くある魅力を道内はもとより日本全国へ発信するため、フットパスや自然観察会を軸とした地域密着型の環境への取組を行っています。 私たちの取組が、地域の活性化に少しでも役立てば幸いです。	たきかわ環境フォーラム 	市民グループ「たきかわ環境フォーラム」は、1つのキーワードを掲げて活動しています。それは「エコアップ！」。 私たちが暮らす地域の環境を見つめ直しながら、少しずつ「自然の豊かさ」を高めていこう、という願いを込めました。実現のために情報を集めたり、その情報を再発信したりする役目も果たせたらと思っています。
滝川消費者協会 	本会は環境保全への取組はもちろんのこと、消費生活の安定向上及び消費の合理化普及を目指すため、各種イベントを開催し、会員相互の親睦及び一般消費者とのふれあいを目的に事業を行っています。	滝川おもしろ食育塾 	滝川市内の未成年者の農業体験を主軸とする食育教の企画、現場活動を行っています。 中空知で生まれ育った子供たちが、命をつなぐ食と人との関わりを五感で感じることや、故郷の農村に誇りを持っていただくことなど、その後に良い影響を受けてもらうことを目標に活動しています。
手紬染織工房たきかわ 	滝川で飼育されている羊の毛を主に使い、身近にある草木で自然の色を染め、糸を作って織物や編み物など、日常的に使用できる作品を作り、販売することで羊毛の暖かさや、自然の色の素晴らしさを知ってもらうことを目的として活動しています。	まち・川づくりサポートセンター 	石狩川再生の森整備、ゴミ拾い活動、水防水難訓練支援（レスキュー訓練、舟漕ぎ大会）、たきかわ子ども水辺協議会の活動、指導者の育成（RAC、CONE、プロジェクトWET・ワイルド・ラーニングツリーなど）

環境都市宣言

わたしたちのまち滝川は、石狩川と空知川に育まれた豊かな大地と自然の恵みを受けて、健康で文化的なまちとして発展してきました。

しかし、今、人々の営みは、豊かな自然や調和のとれた地球環境に大きな影響を与えています。

21 世紀を迎え、わたしたちは、地域の優れた環境を再生し、美しい地球を未来に引き継ぐため、環境にやさしいまちづくりに努めることを誓います。

平成 15 年 1 月 1 日

滝 川 市



第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画

— 年次報告書 —

(令和5年度版)

令和6年7月24日作成

〒073-8686

北海道滝川市大町1丁目2番15号

滝川市 市民生活部くらし支援課（環境衛生係）

電 話 0125-28-8013（直通）

F A X 0125-24-0154

e-mail kurasi@city.takikawa.lg.jp